



414
A 985



政府頒布スル所各港輸出入表及こ各誌載
 スル所輸出ノコトヲ論議スル書ヲ得ラ之ヲ讀ムコ
 トニ未ダ嘗テ長大息セスンハアヲサレナリ夫レ輸入
 輸出ニ過ル其金月ニ五六十萬圓ニシテ之ヲ年
 計スレハ大九七八萬圓ニ下ラス是皆金銀貨幣
 シ以テ償フ所ノモノニシテ開港以來幕政ノ時ニカ、ルモノ
 ハ指テ算セサルモ維新後十有二年ノ間ニモ既ニ一
 億萬圓ヲ輸出セリ金銀貨幣ノ欠乏スル豈鑛
 山開採ノヨク補フ所ナランヤ抑維新ノ初 皇居
 シ東京ニ定ムラレテ次テ藩ヲ廢シ縣ヲ置キ鎮臺鎮
 守府ヲ設ケ徴兵ヲ定メ學制ヲ立テ大學ヲ開キ各
 裁判所ヲ置キ綱目學ヲサルトナク之ヲ休養スルヤ

天正十一年四月
限侯府寄贈



地租ノ改正アリ之カ便ヲ為スヤ電線ヲ架シ郵
 使ヲ送リ之カ運搬ヲ利シテ道路ヲ開鑿シ蒸
 氣船車ヲ通シ百般ノ舉措置一トシテ其當ヲ得
 サルニ開明ノ進歩スル日ノ升ルカ如シ然リ而シテ
 天下ノ人民亦其心ヲ安ンセスレテ繫カサル舟ノ
 底止スルトコロヲシラサルカ如キモノハ何ソヤ他ナレ金
 銀貸年ヲ逐テ欠乏スルニ在ツテ而シテ其原因ハ
 即チ輸入ノ輸出ニ過ル一事ニアルニ是以朝野
 ノ間目ヲ此莫ニ注キ人々之ヲ救フノ策ヲ議セサ
 ルナシト雖モ其見ルトコロ多クハ重ク海關稅ヲ置
 キ輸入ヲ防遏セント欲シテ各國ノ條約ニ觸ルヲ以テ
 之ヲ改正セシムハアルヘカラストス或ハ輸入ノ品物ハ需
 用セシメサラントスルニ過キサルナリ是等ノ論其意ハヨシト

雖モ其事ハ理ニ違ヒ勢ニモトルモノニシテ行フヘカ
 サルナリ夫レ交易ノ有無相通スルハ人間生々ノ
 大道ニシテ之ヲ近ク一身一家ニ徵スルニ交易スル
 ニアラサレハ一日モ存養生活スルヲアタハスレテ交易
 ノチカルヘカサレサル真理ノ尤モ見易スキモノナリ是支
 那ノ遠キ伏犧ノ世ニ在テ天下ノ民ヲシテ交易シ
 テ其所得セシメタルハ之ヲ噬嗑ニ取ル所以ナリ況ヤ
 方今彼ノ物品日ヲ逐クテ其便利ヲ極メ其價ニ
 亦隨テ廉ナルニ至ル天下ノ人民誰カ其廉且便ナ
 ルヲ好マサルモノアラシヤ苟モ開港貿易セサレハ即
 チ乙ム既ニ開港貿易シテ人々彼ノ物品ノ廉且
 便ナルヲシレル以上ニアツテ之ヲシテ務メテ之カ需
 用ヲ防遏セントスルハ譬ハ水ノ卑ニ就クテ止メ之ヲ

レテ高キニヤラントスルカ如キモノニシテ豈ニ勢ニ悖ル太
タ甚シキト謂ハサルヲ得ンヤ而ルヲ或ハ重ク海關
稅ヲ置ント要スルモノハ交易ノ已ムヘカラサルヲ知り
唯之ヲ制限スルニアリ而メ海關稅ヲ重クシ生産
者ヲ保護スルヲタム古人已ニ之ヲ論スルヲ詳ニシテ
議者モ固ヨリ其非ヲレラサレニアラサレトモ金銀ノ
欠乏歲月ニ迫ルヲ目前ノ急ヲ救ハントスル一時
ノ權宜ニ出ルモノト謂ハシカ然レニ唯一時ノ權宜
ニ拘レテ理ニ違ヒ勢ニ悖ルトキハ意外ノ弊ヲ
招クコト多シ寧ろコ之ヲ置サルノ勝レルニ如カサナ
リ何ントナレハ他日我レヨク農ヲス、メ工ヲ精フ
シテ品物隆盛ニ趣キ國用ニ餘アツテ海外ニ輸
出スル時ニ當リ彼レ其制限ヲ立テ我輸出スル所

ヲ蹙縮セハ我其時ニ至テ却テ彼レノ海關稅ヲ
置クニ若シマントス故ニ一歩ヲ進テ公平ノ道ヲ
論スルトキハ交易ハ無稅ヲ以テ至當トナスヘキナリ
然リト雖モ理財ノ道百方料理セサルヘカラサルコ
以テ國內品物隆盛ニ至ルノ間海關稅ヲ收テ轄
金銀ノ欠乏スルヲ補フカ如キハ敢テ之ヲ非ナリトスル
ニ非ス世ノ論者當ニ海關稅ノミニ注目スルヲ以テ
特ニ之ヲ痛論スルノミ然則如何シテ目下金銀
ノ欠乏ヲ救フヘキ熟ラカク輸出入表ヲ閱スルニ
輸入ノ上位ヲ占ムモノハ綿砂糖ニシテ輸出ノ最
多キモノヲ茶生糸トス夫レ茶ハ最モ國內地
産ニ適シ養蚕ハ固ヨリコノ業ニ熟スルヲ以テ外
國ニ比スレハ工費少クシテ産出スルヲ得ルヲ因

ラ之ヲ推擴メテワトメテコノ產出ヲ盛大ナラシメ即
 今ノ額ヨリ二倍三倍ニ至ラシメ之ヲ輸出シテ而シ綿
 砂糖ノ輸入スルニ充テハ是則經濟ノ法交易ノ
 道ニ於テ其權衡ヲ得テ金銀債ノ欠乏ヲ救フ
 ヘキナリ然リト雖モ茶ハ固ヨリ印度熱帶ノ地ニ
 適シ西洋又近來新ニ養蚕ヲナスノ國多シト
 間ク他日若シ此二品彼レニ饒多ク至リ其輸
 出スル所我ニ倍シ從セハ我カ輸出之カ爲メニ壓抑
 セラレ我恃テ以テ綿砂糖ノ輸入ニ充ントコロモノ一
 朝ニシテ權衡ヲ失ヒ而シ綿砂糖ノ輸入依然タル
 一アラハ其困難今日ニ倍シ從スヘシ然ラハ則恃ニ茶
 生糸ノミヲ恃ミトスヘカラサルナリ是ニヨツテ之ヲ按ス
 ルニ輸入輸出ニ過キ金銀貨幣ノ欠乏スルヲ救フ

ト欲セハ重ク海關稅ヲ置キテ遽ニソノ輸入ヲ防遏
 スヘカラス又輸出品ヲ多クシテ輸入品ニ充テシメントスルノ
 ミヲ以テ恃ミトナスヘカラサルナリ之ヲ要スルニ輸入ノ
 最モ多キ品物即チ綿甘蔗ノ栽培方法ヲ精フ
 シ其播種ヲ多クシ其製造ヲ改良シテ盛大ナラ
 シメ其輸入ヲ減省セシムルニテ其事卑近ナリ
 ト雖モ是末ヲ捨テ本ニ反ルノ法ナリ夫レ綿甘蔗
 國內固ヨリヨク之ヲ産セリ然レハ近來西洋品ヲ
 需用スル多ク輸入ノ夥シキカ爲我培ニ從事スルモ
 ノ殆ト破産スルニ至ルコト製造ノ拙ニシテ栽培方法
 ノ其直シキヲ得サルニヨル今テコレカ製造及ビ栽培
 方法ヲ精フスルニ從事シ便利ノ器械ヲ措置シテ
 工費ヲ省キ出入相償フノミナラス栽培者ヲ利

益アラシメテ其播種ヲ多カラシメテ一豈難カラ
シ抑日本綿西洋綿ニ比スルハ其價廉ナラスト
雖其品位ノ佳良ニシテ之ヲ用サテ久シキニ耐之
ラ服シテ温ヲ資ル一洋布金巾ノ比ニアラサルヲ以テ
世之ヲ貴ク存尚之ヲ需用スルモノ多シ又砂糖ノ
如クハ製糖品種中ニ於テ甘蔗ヲ以テ最モ糖分
多キモノトス間クトコロニヨレハ支那モ亦甘蔗ヲ産ス
而シテ其砂糖製造ノ粗ナルヲ以テ洋人之ヲ輸入シ
盛大ノ器械ヲ以テ精製ヲ加ヘ又更ニ之ヲ輸出シテ
毎ニ贏利ヲ收ムト而ルヲ況ンヤ該品ハ我國内産
スル所ノモノニシテ其甘味ノ良好ナル人皆之ヲ知ル
製造宜シキヲ得テ盛大ニ至ラハ其價ヲ廉ナラシメ
而シテ其利ヲ收ムル莫大ナル智者ヲ待タスレテ知ル

一シルソ此二品ハ人民需用ノ意向ヲ挽回スル端
緒トスルニ足ルヘキナリ依テサキニ縷述スルカ如ク製造
及シ播種方法ヲ精フシ栽培者ヲシテ利益アラ
シメ然ル後甘蔗綿トモ西南諸國ヨリ常總以西
ノ人民ヲ勸誘シテ雜穀及ヒ里芋琉球芋等
ヲ植タル地及ヒ水田ノ該二品ヲ播種スルニ適スル
地ハ盡ク之ヲ栽培セシメハ其播種モ蕃殖シ其
產出モ盛大ニ至リ自然輸入ヲ減省スヘキナリ當
ニ之ヲ減省スヘキノミナラス然レハ天下ノ人民ヲ
シテ西洋綿砂糖ヲ顧ミサルニ至ラレムヘシ然リ而
シテ常總以西ノ諸國ヲシテ綿甘蔗ノ播種ヲ要セ
シカハ必ス水豆ノ欠乏ニ至ルヘキ歟陸羽地方ハ
固ヨリ甘蔗無ク地多クシテ之ヲ開墾スルトキハ數万

町歩ヲ得ルカタカラス加之山河ノ地勢水利ニ便ナ
ラセシ地ナキヲ以テ終ニ工作ヲ加エハ從來ノ火田
盡ク之ヲ水田トナシテ耕耨ノ勞費ヲ省キ收護
ヲ考カラシムヘキモノ又數萬町歩ニ下ラス其灌漑
ニ堪ハルモノハ十中一二ニ過キサルノミ而シテ此地方
尤モ米豆ニ適シ氣候寒冷耕耨ノ期節短ク
シテ天久作ニ止ルト雖モ其收穫ルトコロハ却テ二作
ノ量ヨリモ夥シ真ニ農ニ利アルノ地ト謂フヘシ因
テ此二項ノ地力ヲ興シ常總以西產出スル所ノ
綿砂糖ヲ以テ輸入ヲ減省シ陸羽收ムル所ノ
豆ヲ以テ該地ニ送リ其欠乏ヲ補ハ國內有
無相通スル一層ノ便ヲ増サン此事幕政ノ世
國各其主ヲ異ニシ境内ノ產ヲ要シテ他ニ仰

カス秦越相顧サルノ時ニアツテハ得テ行ク難キモ
今ヤ海内一家四海兄弟ノ日ニ當リ唯其易
キヲ見テ其難キヲ見サルナリ惟精當ヲ數々西
南諸國ヨリ東海東山ノ間ヲ跋涉シ即今久
シク陸中ニ在官スルヲ以テサキニ陳スルトコロノ地理
形勢ハミナ實歴目撃スルモノニカ、リ其成算ハ
竊ニ期スル所アリ徒ニ憶測ヲ以テ之ヲ議スルニ
ハサレナリ若夫果シテ海關稅ヲ重クスルノ術ヲ
以テ輸入ヲ防遏スルノ策ヲトラス針ヲ反本ノ矣ニ
轉シ方向ヲ製造及ヒ栽培方法ヲ精フスルニ定
ムルニ需用ノ意向ヲ挽回スルヲ以テ標目トシ類ヲ
推シテス、マハ所謂農ス、ニ工精ノ品物隆盛ナル
ニ至リ始テ輸入輸出ノ權衡平準ヲ得サキニ輸

出ストコロノ金銀貨幣ヲ回復シ天下人民
心要ク身樂ク百事ノ功績今日ニ數倍セシ
仰キ願クハ之ヲ實施アラントラ右陳述スルトコロ
實ニ遠ク見ラ免レスト雖モ區々ノ衷情黙
止スル能ハズ昧死以テ聞ス誠恐誠惶頓首再
拜

明治十三年一月

巖手縣令島惟精



内務卿伊藤博文殿
大藏卿大隈重信殿